

田号館通信

明大正五年
田舎統我保書記留
10/16 NOB

9/30の貞をもつて 10月の大本営を
斗山競争 日本軍へ進撃せよ△

10. **「田舎の切札」地平で**
田舎の切札

全ての斗争委員会は、何別斗争の
歴史的現在を「月政治」へ
向けての区别に於て、總意圖
にせよ、

は一月東大斗争以降、田井中といふ「新たに帝國主体の权力に於する政敵」が、即ち大斗争の中でのよろこび化してゐるのか。確かに個別ドクトリードは、庄重的の权力總体の體育体制により、徹底抗戦・奮闘の争と因縁の同調へ入つていつた。だが、しかし、やうの巨大自然属性は正しく清涼の自然属性を射程外視し、批判すらして、そこにはすぐれて田団里共身に結集し、一月20年安保暴戦伍ト訪問組上の政治斗争へ向け自己を追求せんとする主體である。即ち、諸君がはたま解体といふ普遍的・永遠的のローランなど、20年安保斗争に11月決戦の内容に於て何を賭けてやうなけれどもいよいよ。そして、そのことは正しくこの大衆が従来の大学と、うら初夏を跨年の全国運動の展開が、個別斗争の徹底化を田井・石賀・井戸隊との斗争を封鎖・占拠斗争として物質化していつた。それに對し、以降の全国斗争の多いがその自然主義的發展が帝の歴史的發展のやで個別のもの發展はアラグの内で客觀的には保障されてゐるとして去聲滅絶・諸藩藩の利害の激突がねじれこままでよとしたことにも二大階級の対決として深化する帝の至教精神へむじろ靈骨は彈压体制の強化と大學生立法といつて政治改革を行うことで自らから全体のと自ら前に展開した事のシエーネマウル別誕生を尊遠と廣義の體育といつて循環の中にのり込んでいつたのである。それで帝の日本革命と帝の本性とを對比しての全国斗争の多いもその自然属性のでアラグの大きな大學といつて別斗争を政治斗争などの一般的な連絡からだして有り難く精神的に政治斗争との個別斗争を區別を追求し始めている。即ち大學・科学を追求して帝の學生の社会貢献は自らからを譲る被虐的として大學科學そのものの不能力構成として政治暴露し11月政治斗争へ向つて、それを覺化させて、それがなければは到底ない。従つて教育の能力の状況に対する意識的に行別斗争を確信して、大學科學そのものの不能力構成として政治暴露し11月政治斗争へ向つて、それを覺化させて、それがなければは到底ない。

(4) ではその様な趣旨に踏みと、如何にして10月の大決戦を成功させねばならぬか。
ホーに城タの伯母斗争を1月で終結させる為に当時の参加路線を全連集会に於いて輸
却し、そつてそれを可能にする条件を統一案共へ向けての年次定期会議を全連集会の
前に勝ちとり1月に於ける斗争の勝利を準備することである。
ホーに伯母斗争の永続的・永久的為に、各斗争委員會に伯母を整理し、それを通じて組
體倒を確定し、ホー二線を築上げて置ければ何らむ。